



校長室だより

令和8年度

7月17日

NO. 15

楽しくて心も大きくなる…そんな夏休みを味わいたい！

「楽しい、面白いと思える時間を作るうえでカギとなるのが『気づきの数』です。物事を見聞きしたときに、細かな工夫やメッセージに気づく。難しい問題に直面したときに、打開策に気づく。そういう気づきの瞬間には、快感を感じます。」
『「気づき」の快感』（幻冬舎新書） 齋藤孝著



さえずりさんの読み聞かせでは、本の世界を味わいました。健康集会でアンガーマネジメントを学びました。

十日に行われた健康集会では、健康委員さんが劇などを交えて、イライラをほぐす方法や、実際に怒るときはルールなどアンガーマネジメントについて伝えてくれました。学芸会しながら、原稿も見ずにみんなの方を向いてしっかりと説明したり演じたりする健康委員の姿は立派で、見ていた学校運営協議会の皆さんも、感心されていました。

運営協議会委員さんの中には、アンガーマネジメントという言葉を初めて聞くという方もみえ、子供たちの心の健康に対する意識の高さを感じていただけました。実際に、イライラすることは子供だけでなく、大人でもあります。スクールカウンセラーの先生は、怒るなど感情を出すことは大事だと言います。けれどそれにより人に迷惑をかけたリしないようにしないといけないと言います。大人でもそうした感情をコントロールすることは難しいです。自分の、自然の感情と向き合い、自分自身でどう寄り添うのかは、心の成長にとって永遠の課題なのかもしれません。

また人はやりたいことができないとイライラします。子供も同じです。大人はすぐに判断をしますが、子供にとって「だめ」「諦めな」は心の解決にはなりません。問題を自分事として捉え、どうしたらいいのか自分で考えたり実際にやってみたりすることが、（イライラしたり失敗したりすることも含め）大事と言えます。夏休みなどに、そうしたことに挑戦する機会を作ることと心の成長に繋がります。

十五日には読み聞かせが行われ、多様な世界に触れさせてもらいました。体験などによって得られる多様な世界も、心の成長を進化させてくれる機会になると考えます。

【7/15 のさえずりさん読み聞かせ本】1, 2年生「たなばたのおはなし」(北田伸脚本)、「てんてんきょうだい」(山田慶太文)、「ウラバン・オコサ」(谷川晃一作)、「びっくり、しゃっくり くしゃみにおなら」(長新太作)、「かさぶたってどんなぶた」(小池昌代編)、3, 4年生「やぶがらし」(野坂勇作文)、「タコとだいいこん」(伊佐久美著)、「みょうかやど」(川端誠作)、5年「はつきよい どーん」(やまもとななこ作)、「おれ、よびだしになる」(中川ひろたか文)、6年「森と川、山と海 ヒグマの旅」(二神慎之介写真・文)、「かぶとむしのぶんた」(鶴見正夫作)

・保護者の皆様、学区の皆様、1学期間、ご支援ご協力ありがとうございました。